

TGUISS
Social Action Team

2019年度

年次報告書

Annual Report



目次

P1	表紙	P13	小菅スタディーツアー
P2	目次・ごあいさつ	P13	FRJ2019
P3,4	jimoto PJ 地域チーム	P14	キフ・ダイアログ
P5,6	jimoto PJ 練馬チーム	P14	10周年記念イベント
P7,8	kokusai PJ FTCJチーム	P15	寄付者へのメッセージ
P9,10	kokusai PJ MSFチーム		1年間のメディア・受賞情報
P11,12	一年間の活動	P16	組織概要

ごあいさつ

2019年度ソーシャルアクションチーム部長 富木南葉

昨年度は創部から10周年を迎え、みなさまにより近くでチームを応援していただけるようマンスリーサポーター制度をつくり、感謝を伝えるべく10周年記念イベントを実施するなど、新たなことに挑戦できた一年でした。これらの活動を通して、みなさまとの“繋がり”を実感できたことを大変嬉しく思います。

今後とも、ソーシャルアクションチームへのご支援、ご協力をよろしくお願いいたします。



2019年度ソーシャルアクションチーム副部長 工藤颯莉

平素よりソーシャルアクションチームの活動への温かいご支援を賜り、心より感謝申し上げます。2019年度も、大きな支障なく1年間の活動を終えることができました。2019年度はソーシャルアクションチームとしては1つの区切りの年でもありました。完結させたプロジェクトもあれば、クラウドファンディングなど初の試みとなった活動もあり、学びと発見に溢れた1年となりました。

今後とも活動へのご支援のほど、どうぞよろしくお願いいたします。





チルコロDEハロウィンでのコラボ商品販売の様子



地域チーム

地域とつながることの魅力や面白さを中高生に知ってもらい、中高生が地域活性化の原動力になる！

地域とつながることの面白さや魅力を発信するため、長野県上田市と東京都練馬区の食材をコラボレーションしたお菓子を開発しました。

お菓子を通して地域と繋がることの魅力を知ってもらう！

「地域課題」と聞くとやはりほとんどの中高生がタニンゴトとして捉えてしまいます。そのような中高生に地域と繋がること楽しさや面白さを発信するために私たちは長野県上田市にあるNPO法人食と農のまちづくりネットワーク(以後食まちさん)の協力の元、上田市と練馬区の食材をコラボレーションしたお菓子「コラボ商品」の開発と販売を1年間行なってきました。長野県上田市には2017年から毎年3月にスタディーツアーとして訪問してき

ました。スタディーツアーとは、地域の課題や魅力を学ぶために魅力ある地域に訪れる部内のイベントで、これまで宮城県女川町、長野県上田市、山梨県小菅村を訪問しました。食まちさんとは2017年の第1回上田スタディーツアーの際に訪んさせていただきました。コラボ商品を作りたいと思ったきっかけは食まちさんが販売していた「上田ブラウニー」でした。上田ブラウニーには上田市の名産物である山口大根が入っていて、地域の食材を活かしたお菓子となっていました。上田の魅力が詰まったお菓子に感動した私たちは、自分たちの

jimoto の食材を使って同じくお菓子作りをしたいと思い、次の3つの目標を掲げました。
 ①地域の食と農の魅力や課題をお菓子を通して知ってもらう。
 ②中高生が離れた地域と関わり、その地域の情報発信や課題解決の一環として、「商品開発」を確立させる
 ③離れた地域にいる農家さんと生産者を繋げる
 1年間、上田×練馬のコラボ商品開発・販売に取り組んだ結果、4種類の商品を開発し、地域のマルシェやお祭り、学園祭などで販売することができました。

開発した4種類のコラボ商品！

今年度は旬の食材に合わせて4種類のコラボ商品を開発しました！4種類とも上田市と練馬の食材を活かしたお菓子となっていて、食材選びから商品案まで私たちが考えました。

大根パウンドケーキ

上田：酒粕×練馬：大根



初めて商品化された商品です。大根が煮リンゴのような食感になっていて、ちょうどいい甘さのパウンドケーキです。

紫小松菜の味噌クッキー

上田：味噌×練馬：紫小松菜



味噌の甘塩っぱい味が特徴のクッキーです。紫小松菜を入れる割合を変えて3種類作りしました。

ピーマンパウンドケーキ

上田：パプリカ×練馬：ピーマン



家庭科室で試作品を作り、苦味は無く、ピーマンの風味とパプリカの甘みが味わえる商品にしました。

ブルーベリーとルバーブのスコーン

上田：ルバーブ×練馬：ブルーベリー



人気no.1の商品でした。甘い大粒のブルーベリーと甘すっぱいルバーブが入ったスコーンです。

商品開発のプロセスを掲載した小冊子“jimoto人”の作成

初めてのコラボ商品販売を終えて気づいたのは、お菓子だけでは具体的な地域の魅力や課題を発信することができないということです。そのため、次の販売に向けて、私たちは商品開発のプロセスや、地域の魅力を掲載した小冊子「jimoto人」を作成し、配布しました。

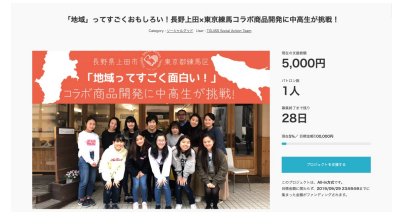
小冊子にすることによって、直接お客さんに私たちの地域に対する想いを伝えることができました。



資金調達のため初めてのクラウドファンディング

商品開発や小冊子の作成資金を調達するため、クラウドファンディングに初めて挑戦しました。結果目標金額を上回る13万円が全国の38人の支援者から集まりました！リターンにはサンキューカード、“jimoto人”、コラボ商品のレシピカードを支援者の皆様へ送付しました。

クラウドファンディングを行うことによって、資金調達だけでなく、自分たちの活動を見直し、整理することができました。



4カ所でコラボ商品を販売しました！

●5/19スプリングフェスタ
ソーシャルアクション部が毎年出店させて頂いている地域のお祭りでコラボ商品を初めて販売しました！

●9/21・22 学園祭
商品は人気で即売するものもありました。学校の生徒にも上田と練馬について知ってもらうことができました。

●10/27 チルコ祭り
毎年出店させて頂いているハロウィンのお祭りで販売しました。食まちさんにも実際東京に来て頂き、初めて合同販売を行いました！

●11/24 SEIBU Green marche
練馬で活動している農家さんやお店が出店するマルシェで販売させて頂きました。

上田市市長の土屋陽一様からお手紙を頂きました！

私たちの思いがたくさんの人を通して上田市市長の土屋陽一様に届き、お手紙を頂きました。市長さんまでに届くと思っていたので驚きましたが、今後も上田の方々の期待に応えられたいと思っています。

拝啓

初めにお便りを申し上げます。

秋風が立ち始め、しのぎやすい頃となりました。

さて、貴ボランティア部の活動につきまして、知人を通じて知り、地域問題を「ギフト」として捉え、中学生が地域・日本の課題解決の原動力になるという、その取組を拝見させていただき、大変ありがたく、また、心強く感じ、深く感動を覚えました。心より感謝の意を申し上げます。

練馬区と上田市は、1980年に練馬区立武石少年自然の家を開所して以来、小・中学校を中心に協働や体験や、又、一歩踏み込んだ交流を深めてまいりました。1994年には、これまで共に取り組んできた自然の環境と自然の恵み、さらには文化、教育、産業等において交流促進を図るため、友好提携を結んでおります。

その練馬区にある貴校の皆さまによる、スタディツアーをきっかけに上田市民との交流が生まれ、上田市を「jimoto」として活動することによって、新たな関係者との絆となり、練馬区と上田市との友好関係をさらに深めることになると感じています。

学生の視点で捉える上田は、上田で生活をしている私たちでは気づかない魅力の宝庫に間違いなく感じています。幸をなめた上田市民や関係者の皆様や、上田の魅力を発信したい！上田に誇りを持てる！という皆さまの今後の活躍にたいに期待をしております。応援してまいります。

私どもも、皆さまが本気で「上田に活動がたくさんある」とう感じをもちつくりを進めてまいります。今後とも皆さまのご活躍にご期待申し上げます。このような活動を糧に成長する皆さまを大変願っております。

機会があれば、情報交換などお話し合いの場を待ってぜひ会いに伺い上げます。末筆でございますが、今後の皆さまのますますのご活躍をご祈念申し上げます。御礼のご挨拶とさせていただきます。

東京学芸大学附属馬場国中等教育学校 ボランティア部 係 校長 土屋陽一

令和元年9月吉日 上田市長



対象地域：東京都練馬区
ゴール：練馬の地域活性化

本校学園祭で実施した『パンフェス@ISS』の様子

jimoto
プロジェクト

練馬チーム

練馬の魅力を中高生の視点で発信し、地域活性化に繋げる！

練馬の魅力をもっと多くの人に知ってもらうため、イベント開催・まちあるきMAP・ツアー企画等様々な活動を行いました。

練馬の魅力を若者に、もっと知ってもらいたい！

練馬区のさまざまな地域の「まち」としての魅力をもっと多くの若者に伝えたい！という想いからこのプロジェクトは始まりました。

たとえば江古田には個性的で素敵なパン屋さんが多くあるという地域活性化につながるコンテンツがあります。しかし、それを知っている若者はあまりいないということを残念に思いました。

また、私たちの学校がある大泉は、東映アニメーションの製作所、都会的

な施設と緑が共存する落ち着いた街並み、個人店の強みを生かした素材にこだわった様々な飲食店と、魅力にあふれたまちです。最寄りの駅である大泉学園駅周辺には多くの中学校・高校があり、大泉学園駅は1日の平均乗降者数が西武池袋線で池袋駅、練馬駅に続く第三位と、とても多くの人々が利用しています。私たちの学校に通う生徒の多くも通学に大泉学園駅を利用しています。ですがクラスメイトに話を聞くと、学校に行くための『学校に行くための交通手段』としてしか大泉学園を認識していない人がほとんどで、大泉というまちの魅力を知っている人はなかな

かいませんでした。

江古田も大泉も、そのまちならではの魅力的なお店・スポットはたくさんあるけれども、若者にうまく浸透していない。この原因は、それぞれのまちの魅力を伝える中高生・若者向けのコンテンツが少ないことにあったと私たちは考えました。

いま、地域活性化は日本全体の課題になっています。中高生向けのイベント開催やMAPの作成を通して練馬を通勤・通学などで利用する若者が練馬の魅力を知り、好きになってもらうことによる練馬の地域活性化を目指して活動を行いました。

大好評！！パンフェス@ISS 学園祭で江古田のパンを販売！

9月21日・22日の2日間、本校学園祭にて、江古田のパン屋さん6店舗から仕入れたパンを販売しました。江古田は私たちの先輩がまちあるきツアー第一弾を開催した、私たちにとっても思い出深い場所です。学園祭に来場する中高生・大人の方にもおいしくて個性あふれる江古田のパンの魅力を感じてもらい、江古田を好きになってもらうことを目的に実施しました。

学園祭の来場者が江古田のパン屋さんに足を運びきっかけを作るため、パンを提供いただいたパン屋さんの情報を掲載した小冊子『jimotoZINE パンフェスガイドブック』も作成し、パンを売るのと同時に配布しました。両日ともに1時間ほどで売り切れとなる、大盛況でした！



中高生をターゲットにした大泉まちあるきマップの作成

大泉学園駅周辺で中高生を中心とした若者にぜひ行ってほしい場所を紹介するまちあるきマップ『ねりMAP in 大泉』を作成しました。

表面には大泉の地図とおすすめスポット、裏面では『安くておしゃれなおいしいお店』をコンセプトに大泉にある素敵なお店11店舗

を特集しました。作成したマップは大泉学園駅周辺の中学校・高等学校や、練馬区の観光案内所などで配布したいと思っています。



中高生向けまちあるきツアー 大泉で『ねり旅』！企画

SAT主催のまちあるきツアー第二弾！大泉にゆかりのある中高生と大泉を巡り、見つけた魅力をどう発信していくか考えるツアーを企画しました。

与えられたヒントをもとに参加者が自分でお店やスポットを探すという、普通のツアーにはなかなかないアドベンチャー要素も取り

入れました。今年度の実施はかないませんでした、来年度以降の活動につながるよいプロセスになりました。

jimotour002 大泉でねりたび！！一日のプラン

11:30 集合@大泉学園駅前
企画概要説明
グループ分けとコースの概要説明

11:45 出発

A B C D
アドベンチャーまちあるき
(2時間)

14:00 ダイアログ会場集合
ダイアログ&WSスタート

28分

17:00 終了予定

指定された場所を探したり、MAPにあるお店の店主さんに大泉に関する情報を集めたりしながらまちあるきをします！

令和元年度 まちづくり活動助成事業に指定されました！

まちづくり活動助成事業は、公益財団法人練馬区環境まちづくり公社 みどりのまちづくりセンターの行っている、練馬区をよりよいまちにすることが期待できる企画に助成金を交付し、活動を支援するという制度です。

私たちは今回、まちづくり活動助成事業たまご部門の助成対象企画のひとつとして5万円の助成金を頂き、活動を行うことができました。助成金の申請には、活動の概要や目的、使用経費の見積もり等を記載した活動計画書の

提出が必要です。実際にまちづくり活動をされている大人の方に自分たちの考えた活動を伝えるのは緊張しましたが、たくさんのアドバイスを頂いたことで、活動の目的や意義を申請の過程で再確認できました。

助成事業に指定されたことで、MAPや冊子の印刷製本費を予算に制限されることなく、自分たちの本当に作りたい冊子・MAPを製作することができました。また、実際に様々な地域の地図やガイドブックを作成しているみどり

のまちづくりセンターのみなさまから、まちあるきマップの作成の仕方をアドバイスいただけたことも、活動のなかで大きな助けになりました。



まちづくりセンターにて企画の相談をしている様子



対象地域：ケニア
ゴール：途上国の教育支援

石神井公園駅ロータリーで行った街頭募金の様子



×FTCJチーム

中高生だからこそできる発展途上国の教育支援を行う。

フリー・ザ・チルドレン・ジャパンの協力のもと、ケニアでの学校建設のためファンドレイジングと、ケニアや教育の情報の発信

ケニアに学校を建設して子どもたちに教育を届けたい

×FTCJプロジェクトは、SATメンバーと以前より交流があった認定NPO法人フリー・ザ・チルドレン・ジャパン（以下FTCJ）とまた新しい形でコラボができればという想いで昨年4月に発足しました。

私たちは、「子どもや若者は助けられるだけの存在ではなく、自身が変化を起こす担い手である」という理念のもと、「世界から貧困がなくなり、すべての人が平等な機会を得られる世界を作る。」というビジョンと、「先進

国の中高生だからこそできる発展途上国の教育支援を行う。」というミッションをかかげ、一年目の活動を行いました。

FTCJは教育・水・保健・食糧・収入向上の五つの柱を中心に村全体の自立支援を行っています。私たちは、その一部である学校建設のために、三年間で計260万円の寄付を集める事を目標にファンドレイジング活動を行いました。さらに、このファンドレイジング活動に加えて、より多くの方に発展途上国へ関心を向けていただくためにケニアに関する情報発信もしました。

今年度は6月と11月にそれぞれ「All

4 education」と「世界こどもの日」の計2回キャンペーンを実施し、期間中にはテーマに沿ったポスターの掲示、そして校内・大泉学園駅・石神井公園駅で街頭募金をしました。キャンペーン以外にもブログでのケニアに関する豆知識の発信、スクールフェスティバルでのクラフト封筒の販売も行いました。

All 4 educationキャンペーン、世界こどもの日キャンペーンの実施

All 4 educationキャンペーン

6月17日～6月28日にSDGsゴール4「質の高い教育をみんなに」を考える期間として行われたこのキャンペーンでは、校内と大泉学園駅での街頭募金で¥66,112を集めることができました。

世界こどもの日キャンペーン

11月19日～11月26日に世界こどもの日に合わせて世界のこどもたちの現状を知る期間として行われ、世界各国のこどもの日を書いたポスターの掲示と校内・大泉学園駅・石神井公園駅での街頭募金で¥87,713を集めました。



SCFでのクラフト封筒販売

9月に行われたスクールフェスティバルでは、チームメンバーがイチから手作りしたクラフト封筒の販売を行い、その売り上げを全額寄付としました。1セット¥100で100セット作成しましたが、最終的に¥900の寄付が集まり、想定していた数には及びませんでした。販売方法やクラフト封

筒の質など、様々な角度で改善の余地があると感じました。



Blog“ササっとケニア知識”

10月-11月の間、およそ一週間に一度のペースでボランティア部公式ブログにケニアの観光や抱えている問題等を紹介する“ササっとケニア知識”という連載を行いました。計7回連載し、あげる際にはその週の活動記録と共にFacebookにも投稿をし、私たちの日々の活動も積極的に発信

していくことを意識しながら行いました。



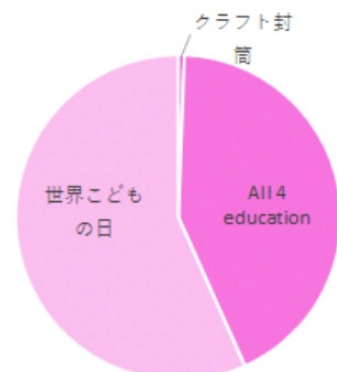
昨年度の実績と、次年度の計画について

3か年計画で行っているこのプロジェクトですが、昨年度集めたのは計¥154,725で内訳は右の図のようになっています。ほとんどをキャンペーン内の街頭募金によるものですが、期間が短く、少量ずつの地道なファンディングの方法のため、一年間に100万円というざっくりとした目標に遠く及びませんでした。昨年度の反省も含め、次年度の活動として私たちが力を入れていくのは、一度に多くの寄付を得るやり方を実践すること。案と

して挙がっているのは、クラウドファンディングなどです。また、街頭募金を少しレベルアップさせた季節ごとと合わせたスタイルでの募金など、今までの活動も工夫して継続していくことで定期的なファンドレイジングと発信が実現できるのではないかと感じています。

一言でファンドレイジングといっても、形は様々でアイデア次第で無限に広がります。私たちが進んで新しいファンドレイジングの形を探ってい

発信することでより多くの方が途上国の教育に関心を持っていただけたら嬉しいです。





対象地域：東京都練馬区
ゴール：キフのカ.アイデア実現

本校学園祭で実施した寄付コインタワーの様子

kokusai
プロジェクト

×MSFチーム

中高生が楽しく人道援助、寄付ができる“きっかけ”をつくる！

中高生が楽しく、身近に人道援助や寄付の活動に参加できるように、
ファンドレイジングアイデアの実施、マニュアル製作等の活動を行いました。

寄付や人道援助を楽しく、 身近なものにしたい！

世界の貧困、難民など国際問題への関心は高まる一方で、その解決に重要な寄付や人道援助は、日本の中高生にとって、自分とは遠い存在、難しい存在として認識されることが多くあります。しかし、私たちが考える「寄付」とは「誰もができる」、「だれかを支えることができる一番身近な手段」です。この魅力を知っているからこそ、SATが中高生を人道援助や寄付につなげる存在になれるのでは、と考えました。そこで、寄付や人道援助と距離が

ある中高生を活動に巻き込み、寄付と人道援助に楽しく参加できるきっかけを作ることで、「中高生が主体的に人道援助を行うことができる社会」を実現することを目的に活動を行ってきたのがこのプロジェクトです。

このプロジェクトの出発点となったのは、2018年度にSATが主催した、「人道援助×中高生×キフ」をテーマとする「キフのチカラ2018」です。このイベントでは、国境なき医師団の人道援助の活動をもとに、「どのように中高生、寄付、人道援助をつなげられるか」について参加者の方とファンドレイジングアクションを考えました。

ここで出たアクションのアイデアの一つである「寄付コインタワー」を学園祭で実施し、誰でも実施できるようにその成果や経験をマニュアルにまとめました。また、街頭募金では、街頭募金の準備から事後の振り返りまでのプロセスをSATのSNSで発信しました。そのほかにも、新しい、楽しく気軽に参加できるファンドレイジングアクションを考えるなど、中高生が社会の中心となって人道援助、寄付を行う社会の実現とそのきっかけづくりを目指して活動を行いました。

好評！！学園祭で寄付コインタワーの実施！

9月21日・22日の2日間、本校学園祭にて、キフのチカラ2018の寄付アクションの一つである寄付コインタワーを実施しました。寄付コインタワーとは、募金先のことを自ら知って、自ら選び、コインを積み上げていくことによって参加者が楽しく寄付先について学び、寄付できる、また寄付を視覚化できるファンドレイジング方法です。今回は国境なき医師団の活動先中で6つを「寄付先」として絞り、百円限定で行いました。従来の街頭募金などとは異なる寄付方法であることから、参加者からは「面白い」、「気軽にできる」という声をいただくことができました。また、コインを積み上げるという方法から、幅広い年代の方に楽しんでいただくことができました。



国境なき医師団事務局訪問と活動の具体化

キフのチカラ2018でコラボさせていただいた国境なき医師団 (MSF) の事務局に訪問させていただきました。国境なき医師団の活動やファンドレイジングについて学び、具体的にどのようなファンドレイジングアクションを実行できるのか、具体的な活動内容や計画について話し合いました。

た。ブレインストーミングしていたアイデアをより具体化し、またより発展したアイデアも得ることができた有意義な時間となりました。



街頭募金の実施と発信

8月26日、27日の二日間大泉学園駅前で行った街頭募金を、計74,729円をMSFに寄付しました。国境なき医師団からお借りした写真パネルなどがインパクトがあり、多くの人が募金活動に協力してくださいました。他の中高生も私たちの活動を参考に、寄付の活動を行うことができるよう

に、街頭募金の申請から事後の処理までのプロセスや募金活動の振り返りをSATのFacebookで発信しました。



寄付コインタワーマニュアル製作

このマニュアルを通して、だれもが楽しいファンドレイジングができるように、本校学園祭で実施した寄付コインタワーの目的・効果・実施方法・成果・振り返りなどをマニュアルにまとめました。実施した経験をもとにした振り返りや工夫できる方法を載せることによって、他の場でも活用

できるように制作しました。

キフコインタワーの効果・目的

○自ら知って、選ぶことで「繋がる」キフに

寄付コインタワーとは、ほかの募金方法よりも自分の興味や好みに着目できる寄付。「私が寄付したお金は具体的にどこで何に使われているのか」や「私の問題を解決するために使われている募金なのか」といった疑問がある、また無目的な寄付ではなく、「自分はここに使ってほしい」や「この国はニュースで聞いたことがあり、深刻な状況だから使ってほしい」など自ら寄付先を選ぶことで、その後もさらに相手にその国や問題について興味を持ってもらうことが可能となり、寄付をする人と寄付先の間を「繋がる」ことができます。



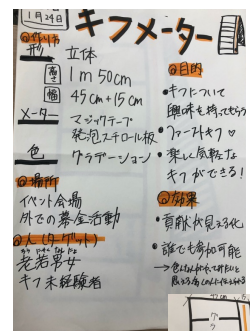
寄付先の資料をそれぞれのタワーの前に置いて実施したところ、興味を持って読む方が多く、一番の関心は「寄付先を尋ねて募金を行っています」。子供の場合、最初はそれぞれの国について全く知らなくても、「選択紙」が与えられたことによって、それぞれの寄付先の資料を読み、考えてから、寄付をしていました。寄付コインタワーは「寄付する」ことだけでなく現状について学ぶ・興味を持つ「選り分け」を行います。

大人の方でも、「自ら選択した寄付先であるからこそ、これからももっと応援したい」、「初めて知った」などの声がありました。つまり、寄付先と寄付をする人の間に「繋がり」をつくることのできるのです。

*ここでいう寄付先とは国境なき医師団に限らず、一つの国境を越えている国の中で地域ごとに分けられることもあり、寄付する人が複数選択できるようにすることを意味します。

寄付アクション2のマニュアル製作

来年度も、楽しいファンドレイジング方法として活かすことができるように、チーム内で新しい寄付アクションのアイデア出しを行いました。そこで、最終的に選ばれた「寄付メーター」という新しい寄付アクションの行い方、メリット、デメリットなどをマニュアルにまとめました。



1年間の活動

この1年間で私たちが参加したイベントの一部を紹介します。

4月

5/3~5

木とあそぼう 森をかんがえよう
with more trees

5月

都会にいながら親子でのんびりと、日本各地の木とふれあい、森を感じるイベント。

二年目の参加ですが、毎回子どもたちとスタッフの方々の優しさに癒されながら、木に囲まれながらのボランティアは疲れを感じないほど楽しむことができます。大人スタッフの方々と子どもたちの中間である私たちの社会的な役割を感じることができました。



5/18 スプリングフェスタ

「人と地域と未来をつなぐ私たちのひろば」というテーマで開催される地域のお祭り。SATは今年もブースを出店しました。

子どもたちとのミサガづくりは時間や手間がかかりましたが、地域の子供たちと話しながら作り、完成したとき喜んだ子どもたちの顔を見るのはとても嬉しかったです。



5/19 照姫まつり

石神井城にまつわる史実に親しみ、ふるさとの意識の高揚と地域の活性化を図ることを目的とする地域のお祭りです。

照姫祭りでは立ちながらの仕事が多く、とても大変でしたが、祭りに来ていた方々に優しい言葉を頂き、どんなに大変な事でも人のためになっているということを学びました！



6月

7/20 学校説明会

ISSを受験する方やそのご家族に向けた説明会でブースや受付のボランティア。

訪れたお客さんに行っている活動などを紹介して、学校の魅力を伝えることができたこと、進路選択に役にたてたことにやりがいを感じ、活動に共感や興味を持って頂くことができ嬉しかったです。



7月

7/30~8/1 IBワークショップ

8月

毎年本校で開催されるIBを学ぶ先生方を対象としたIBワークショップでの案内、昼食の配布等のお手伝いを行いました。

WSに参加された方々にお配りするお弁当やお菓子の準備を行いました。一日中の仕事で大変でしたが、参加者の皆様が休憩時間にお菓子やお弁当を食べながら楽しそうに談笑されるのを見て、とても嬉しくなりました。



9月

9/21~22 スクールフェスティバル

ISSの学園祭。今年はコラボ商品の販売、募金活動、ワークショップなどを行いました。

スクフェスでは外部のお客さんがSATの活動に興味をもってくださり、SATでの活動について色々話しました。今回みたいに自分たちの活動をたくさんの人に興味を持ってもらえたらいいなと思いました。



10月

10/20 練馬まつり

としまえんで開催されるお祭りで、SATは練馬区身体障害者福祉協会ブースのお手伝いしました。

練馬祭りでは練馬区身体障害者福祉協会の車椅子・点字・手話体験ブースのお手伝いをしました。体験し終わった後に手話で「ありがとう」と言ってくくださる方もいて、とても心が温まりました。



10/27 チルコロDEハロウィン

石神井公園商店街銀座通りで行われる地域のお祭り。地域の飲食店や農家さんなどが出店しています。

販売の仕事をしている間は立ちっぱなしで疲れることもありましたが頑張っているからとたくさん買っていただく方や、応援してくれる言葉をかけてもらい、励みになりました



12月
2020/1月

2月

2/15 中村町会防災訓練

練馬区の町会の一つの中村町会が主催している防災訓練への参加しました。

防災訓練では全てが初めての体験だったため、オドオドしておぼつかない手つきで放水などをしてしまいました。でも、参加者の方々が「頑張ったね!」と優しい言葉をかけてくださり、凄いやりがいがあったと感じました。



特集① 1/2村人になって地域創生！

小菅スタディツアー

2019年8月5日～7日

地域おこしについて学ぶため、私たちは人口約700人の山梨県小菅村で2泊3日のスタディツアーを行いました。3日間を通して、村の散策や役所の方々にお話を聞いて村の魅力や課題に触れ、最終日には「小菅村のファンをどのように増やすか」というテーマでチームに分かれてプランを立てました。

小菅村は人口を増やすということよりも、村のファンをいかに増やすかを重視しています。ファンを増やすために、村人ポイントカードというユニークな制度や情報発信を積極的にやっていて、地域創生についてたくさんのお話を学ぶことができました。小菅村での3日間は、たくさんの人に迎え入れてもらえ、村の温かみを知ることができ、部員全員小菅ファンになりました！



特集② 日本を変える！ファンドレイジング

FRJ2019

2019年9月14日～15日

アジア最大のファンドレイジング大会、ファンドレイジングジャパン2019に参加しました。全59セッションを、10名の部員で分かれてお話を聞きにいきました。

ファンドレイジングの基礎から、発展させる戦略、そしてそれを用いた課題解決まで、様々な極意と事例を学びました。

セッションの最後、これからどんな未来を創りたいか？という質問に「キレイゴトが通じる社会」とお答えしていたのがとても印象に残りました。私たち自身も活動している中で、立ち上げたプロジェクトや企画に対して「目標が大きすぎる」とか「ありきたり」と言われることがあります。でも、それは私たちからすれば「本気でやりたいこと」であって、それがあたりまえに通じる社会になれば…、むしろそう変えていきたい！と思えました。

登壇者の方に限らず、日本をいろんな方法で本気で変えようとしている方々のお話を聞いて、本当に楽しかったです。



特集③ 中高生と大人が語る、 10年後のキフとソーシャルアクション！

キフ・ダイアログ

2019年12月13日

12月13日、私たちは「キフ・ダイアログ」という寄付月間公式認定企画を主催しました。寄付月間とは、「欲しい未来に、寄付を贈ろう。」を合言葉に毎年12月の1ヶ月間、全国規模で行われる啓発キャンペーンです。民間非営利組織、企業、大学、行政、国際機関などが推進委員会を組織しており、これに認定された企画のことを公式認定企画と呼びます。寄付や社会貢献の未来を描くべく、このイベントには25名の中高生と、ソーシャルアクションの最前線を知る8名の大人ゲストたちにお越しいただきました。第一部の「大人ゲストによるピッチトーク」では補助犬や食糧支援、フェアトレードなど、様々な社会貢献の分野に詳しい、プロのソーシャルアクターたちからお話を伺いました。第二部では中高生と大人が一緒になり「10年後の寄付とソーシャルアクション」について語り合いました。「趣味として楽しむソーシャルアクション」「社会が直面している課題をジブンゴトとして捉える社会」「社会貢献による、お金ではない価値の誕生」と、参加者の様々な着眼点で寄付とソーシャルアクションの未来が描かれました。



特集④ 祝！創部10周年、今までの繋がりを実感

10周年記念イベント

2019年2月15日

2009年に創部したボランティア部は、2019年11月で10周年を迎えました。今までお世話になった皆様、サポートしてくださった皆様に感謝を伝えたい、そしてこのイベントを通じて今までのボランティア部を振り返り、これからの活動を考えたい、ということで企画しました。第一部では、パネルプレゼンのような形で現役部員からボラ部を紹介し、第二部では大人サポーターとして、日本財団山田泰久さま、株式会社GoodMorning早川彩紀さまをお呼びしてお話していただきました。さらに第三部では、歴代部長のトークリレーということで4人のOGに登壇していただいて、今までのボランティア部について、フロアとのやり取りを交えながらじっくり振り返りました。

当日は、多くの方に参加していただき、イベントは大成功。また、部の活動がここまで続けられたのも、部の最大の魅力も、たくさんの人との“繋がり”なのだ改めて実感できた1日となりました。



TGUISS SAT

マンスリーサポーターのご紹介

臼田輝生 さま

西山卓郎 さま

大澤直子 さま

山田泰久 さま

亀井達夫 さま

横山彩乃 さま

樽本哲 さま

(50音順)

早川彩紀 さま

マンスリーサポーターについて

SATではチームの活動を一層強化するために、サポーター様を募集しています。ぜひ私たちを応援してください！

サポーター費：月500円

リターン：

- ①活動報告メールマガジンを月1回配信します。
- ②オリジナル缶バッジをお届けします。
- ③主催イベントへの会員価格でのご案内を予定しています。



2019年メディア掲載・受賞情報

- ・ JCOM 地元情報満載デイリーニュース
- ・ 第23回 ボランティアスピリットアワード 首都圏ブロック賞
- ・ SDGsまちづくりアイデアコンテスト ファイナリスト

ソーシャルアクションチーム について

2019年度組織図

部員数：32名

コアメンバー

部長

副部長

チーム
リーダー

チーム
リーダー

チーム
リーダー

チーム
リーダー

練馬

地域

×FTCJ

×MSF

チーム

チーム

チーム

チーム

jimotoプロジェクト

kokusaiプロジェクト

Vision

中高生が
当たり前に参加できる
社会を実現する

Mission

中高生が参画しやすい
社会を創るために、
中高生のモデルとなる

東京学芸大学附属国際中等教育学校ソーシャルアクションチーム

〒178-0063 東京都練馬区東大泉五丁目22番1号

TEL 03-5905-1326 / FAX 03-5905-0317

<https://www.tguissvt.com>

発行：2020年5月29日

発行人：東京学芸大学附属国際中等教育学校ソーシャルアクションチーム

